

第1学年 音楽科学習指導案

場 所 富山大学人間発達科学部附属中学校 LL教室

指導者 富山大学人間発達科学部附属中学校 教諭 関口 道子

1 題材名 生活に生かす音楽創作

～「お鈴」を使って学校のシグナルソングをつくろう～

【A表現(3)創作】 イ 表現したいイメージをもつとともに、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。

〔共通事項〕 音色、リズム、速度、旋律、構成など

2 題材の目標

- ・生活に生かせる音楽に対して自分の表現したいイメージをもち、それを伝え合いながら、意欲的に創作活動を行う。
- ・楽器の音色の特徴や旋律が醸し出す雰囲気を感じ取り、音を音楽へと構成する。

3 題材について

(1) 題材設定の理由

音楽に対する感性を豊かにしていくことは、音楽科の目標の重要なねらいの一つといえる。感性は、音楽を聴いたり、演奏したりする活動を通して、美しいと感じ、さらに美しさを求めながら高まっていくものである。創作活動においては、自分のイメージを音や旋律で表現し、伝える活動を通して感性がより高まると考える。

そこで本題材では、音素材の特徴を感じつつ、自分たちのテーマに合う旋律をイメージし、言語活動を充実させながら、形式や構成を理解して音楽をつくらせたい。具体的には、自分たちの学校のシグナルソングをつくるという創作活動に取り組む。ここで扱う「シグナルソング」とは、単なる合図ではなく、生徒たちの心情面にもうったえるメロディーを意味する。自分たちの学校生活にふさわしい音楽創作に取り組ませることを通して、生徒の創作意欲を高め、自分たちのつくった音楽が生活に生きる喜びを体験させたい。また、本題材では、高岡市の銅器で作られた「お鈴」という、郷土の伝統技術から生まれた楽器を用いる。「お鈴」は深い響きに癒し効果があるとされ、高岡市の駅発車メロディーや市内の小中学校のチャイムに採用されたり、様々な音楽との共演も試みられたりするなど、その名を広めつつある楽器である。これらの音楽活動を通して、富山県の歴史と音楽のつながりを知り、郷土とのかかわりについても学ぶ機会をもたせたい。

(2) 生徒の実態

本学年は、明るく誠実で、素直に表現しようとする生徒が多い。また、集団としても互いに他を認め、他の個性から学び、共に成長していこうとする雰囲気が感じられる。そのような集団において、イメージを伝え合い、それぞれのモチーフをつなぎ合わせて、仲間とともに自分たちの学校に生きるシグナルソングを考案する創作活動を行うことは、いっそう相手を認め合う心や愛校心を育むことにつながると思われる。また、この創作活動を通して、音楽が生活を豊かにすることのすばらしさも感じ取らせたい。

(3) 教材について

中学校学習指導要領解説音楽編では、音楽科の主な改訂の要点の一つに「創作の指導については、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視する」と示されている。このことを念頭におきながら、本題材では、「楽器の音色と旋律が醸し出す雰囲気」を感受しながらよりよい旋律にしていくことをねらいの中心としているため、ある程度の形式による制限を加えることでその活動を充実させたいと考える。そこで、創作の過程としては、一人一人がテーマに合った動機をもとに楽節をつくり、それを受けてペアで三部形式の曲にしていく。このことによって、実際に演奏してみて、楽器の音色と自分たちのイメージに合ったさらによりよい音楽を追究していく「練り上げながら仕上げていく」という過程を充実させることができる。

同じテーマに向かってそれぞれが旋律をイメージし、そのイメージを伝え合う活動を通してコラージュにしていくことで、個々の思いが生かされた1曲を完成させる喜びを味わわせる。

4 研究主題とのかかわり

研究主題 「音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養うにはどうすればよいか。」

本題材では、伝統技術が奏でる楽器「お鈴」に実際に触れながらイメージを音楽にしていく。また、郷土のよさを再発見する。「お鈴」は、大きさや厚さの違いで音階をつくった37個の鈴を逆さにつるした楽器で、現在、富山県高岡市のみで生産されており、全国でも一台しかない貴重なものである。そのため、授業の導入では、まず、3音のミニチュアの「お鈴」を用いて音色の特徴を感じ取らせることから始める。次に、生徒の即興的な表現を効率的に具体化した楽譜（音楽）にするためにコンピュータを補助として活用し、イメージを旋律にする。そして、作品の仕上げの段階で、実際に「お鈴」という楽器に触れる演奏活動を通して、楽器の音色を感じ取りながら旋律を創作する。その際、楽器の音色のイメージと生徒相互の意見交換によって試行錯誤を繰り返し、さらによりよいものに練り上げていくという一連の過程を積み重ねていく。このように、表現や鑑賞の体験と話し合う活動を充実させながら、上述の一連の「イメージを音楽にしていく」創作活動に取り組むことは、音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養うことにつながると考えている。

5 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能
①私たちの生活と音楽のかかわり、郷土で生まれた楽器「お鈴」について興味をもち、その楽器の音色の特徴を感じ取り、意欲的に創作に生かそうとしている。	①創作するテーマのイメージを考え、どのように旋律をつくるかについて自分の思いや意図をもって創作の工夫をしている。	① 創作したい旋律のリズムを理解するなど、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて旋律をつくっている。
②私たちの学校のシグナルソングにふさわしい音楽について、イメージをより膨らまして、意欲的に創作している。	②音色、リズム、拍子、速度、旋律の音のつながり方やフレーズを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、思いや意図をもって反復、変化、対照などの構成を生かして音楽表現を工夫している。	② 曲全体の構成や楽器の音色の特徴を考え、フレーズとフレーズのつながり方や旋律の続く感じや終わった感じを曲づくりに生かして旋律をつくっている。

6 全体指導計画と評価計画（全5時間：本時4/5）

時 間	主な学習活動	関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	感 受 ・ 表 現 の 工 夫	表 現 の 技 能	
第 1 時	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活に身近な音楽、駅の発車メロディーや日本の音風景を鑑賞し、生活や文化と音楽とのかかわりについて考える。 「お鈴」の音色と楽器の特徴、楽器の由来について学習する。 	①		◆関一① 私たちの生活と音楽のかかわり、郷土で生まれた楽器「お鈴」について興味をもち、その楽器の音色の特徴を感じ取り、意欲的に創作に生かそうとしている。【観察、ワークシート】	
第 2 時	<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合いをして、一つのテーマを考える。ペアで曲のイメージを伝え合い、それぞれコンピュータでモチーフを考え、楽節にし、それらを、組み合わせて1曲にする。 			① ◆技一① 創作したい旋律のリズムを理解するなど、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて旋律をつくっている。【楽譜、ワークシート】	
第 3 時	<ul style="list-style-type: none"> 各班の中間作品発表会を行い、作品について、それぞれの作品のよさや修正点を話し合いながら、よりよいものに練り上げるための視点をもつ。 		①	◆感一① 創作するテーマのイメージを考え、どのように旋律をつくるかについて自分の思いや意図をもって創作の工夫をしている。【楽譜、発言、ワークシート】	
第 4 時 （ 本 時 ）	<ul style="list-style-type: none"> 各班の作品に対する意見をもとに実際に「お鈴」で演奏して通して、楽器の音色の特徴をより生かし、自分たちのテーマに合った旋律にする。 代表班の作品をもとに、その音楽的な変容について考える。 	②		◆感一② 音色、リズム、拍子、速度、旋律の音のつながり方やフレーズを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、思いや意図をもって反復、変化、対照などの構成を生かして音楽表現を工夫している。【楽譜、ワークシート】 ◆関一② 私たちの学校のシグナルソングにふさわしい音楽について、イメージをより膨らまして、意欲的に創作している。【観察、ワークシート】	
第 5 時	<ul style="list-style-type: none"> 最終作品発表会を行う。 どのような創作の工夫がみられるか考え、作品の振り返りをする。 学校のシグナルソングの意義について考える。 			② ◆技一② 全体の構成や楽器の音色の特徴を考え、フレーズとフレーズのつながり方や旋律の続く感じや終わった感じを曲づくりに生かして旋律をつくっている。【ワークシート】	

7 本時の学習（本時4 / 5時）

(1) ねらい

- ・ 楽器の音色の特性を生かし、自分の思いや意図を伝えながら、自分たちの作品を、リズム、速度、強弱、構成の視点から、よりよいものにしていくことができる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点と評価
<p>1 本時の学習課題の確認をする。</p>	
<p>「お鈴」の音色の特性を生かし、リズム、速度、強弱、構成の視点から自分たちの作品を見直し、テーマに合ったシグナルソングに仕上げよう。</p>	
<p>2 前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各班の作品に対して前時に出た意見を確認する。 ◇モチーフが効果的に構成されている。 ◇半終止と全終止が曲の構成に上手く生かされている。 ◇複合三部形式としてまとまっている。 ◇テーマと作品のイメージがシグナルソングとしてふさわしいものになっている。 ◇速度はふさわしいかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各班の意図が伝わるよう、適宜、助言をしながら進めていく。 ○リズム、速度、強弱、構成などの視点が分かるように分類して提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆感－② 音色、リズム、拍子、速度、旋律の音のつながり方やフレーズを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、意図や思いをもって反復、変化、対照などの構成を生かして音楽表現を工夫している。 【作品・ワークシート】</p> </div>
<p>3 班ごとに作品の検討をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器を実際に演奏する、話し合いをする、キーボードで演奏してみる活動を通して再検討していく。(話し合い・練り上げ・最終検討) ・ 最終リハーサルとして順番に完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○班に分かれ、楽器を時間で区切って順番に使用しながら、話し合いを通して作品をよりよいものに練り上げていくよう助言する。 ○話し合う場所と、演奏で確かめる場所と時間をタイムテーブルで提示し、見直しをもって活動できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆関－② 私たちの学校のシグナルソングにふさわしい音楽について、イメージをより膨らまして、意欲的に創作している。 【観察、ワークシート】</p> </div>
<p>4 代表の班の作品を鑑賞し、その音楽的な変容について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇お鈴の特有の残響が旋律に与える効果が分かり、創作に生かされた。 ◇楽器の音色について学習していたので、思っていたイメージと近く、リズムのみ修正すればよかった。 ◇演奏の速度で、曲の雰囲気はずいぶん違ってくると感じた。 ◇リズムを少し細かくしても、楽器の柔らかい音色の特質から、やさしい印象になることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマと楽器の音色の特徴からよりふさわしいシグナルソングをつくることが出来たかという視点がもてるよう配慮する。 ○お鈴の音色の特徴を最初に学習したときと、実際に演奏してみた後で、どのように変化したのかをそれぞれが感じ取れるようにする。 ○音楽的にどのように変容したかが視覚的にも分かるように、楽譜を提示する。 ○楽器に触れる前と触れた後で感じた違い、そのことによって音楽がどのように変容したかが、共有できるようにする。

